

予備摘果及びジベレリン処理によるなし「おりひめ」 の大玉生産技術の実証

要約

満開後 40 日に予備摘果及びジベレリン処理することで、平均果重が増加し、大玉規格の果実生産ができる。加えて、ジベレリン処理によって熟期促進効果が認められ、幸水（GA）とのリレー販売が可能となる。

○ 展示のねらい

おりひめの果実肥大を促進させるため、早期摘果及びジベレリンペースト処理（以下GA）を用いた大玉生産技術を実証するとともに、果樹直売経営の観点から成熟期を含めた現地適応性を確認する。

処理区	品種名	摘果実施日 (満開後日数)	ジベレリン ペースト
供試区 1	おりひめ	20 日	5/22 処理
供試区 2	おりひめ	40 日	5/22 処理
供試区 3	おりひめ	20 日	無し
慣行区	おりひめ	40 日	無し
対照品種	幸水	30 日	無し

○ 主な成果

満開後 40 日に予備摘果及びGA処理を行うことで、平均果重が増加し、12玉（5kg箱）以上の大玉規格の果実生産が可能となる。なお、満開後 20 日に予備摘果した場合でもGA処理によって平均果重は増加したものの、早期摘果の影響により幼果の見極めが難しく、大玉規格の割合はやや少なくなった。

収穫始期は、GA処理した場合、無処理と比べて3～5日早く、幸水より16日早かったことから、幸水（GA）とのリレー販売が可能と考えられる。

表 各処理区における果実特性及び収穫期

処理区	品種名	平均果重 g	糖度 %	果肉障害	満開期 月. 日	収穫始期 月. 日	成熟日数 (日)
供試区 1	おりひめ	374	11.7	無	4. 13	7. 21	98
供試区 2	おりひめ	477	12.0	無	4. 13	7. 21	98
供試区 3	おりひめ	344	11.6	無	4. 13	7. 24	101
慣行区	おりひめ	335	11.9	無	4. 13	7. 26	103
対照品種	幸水	456	13.3	無	4. 15	8. 6	111

○ 今後の方向性

果樹農家に対して、GA処理を用いた大玉生産技術の普及を図るとともに、品種組合せによるリレー販売を確立するため、おりひめの導入拡大を推進する。

実施機関：安足農業振興事務所経営普及部 実施場所：佐野市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315